

- 1 閉塞性動脈硬化症にみられない所見はどれか。
- 歩行時に下肢疼痛、だるさ、脱力感が生じ、休息により改善する。
 - 下肢疼痛が出現するまでの歩行距離に再現性がある。
 - 冷感、しびれ、疼痛が片側性に認められる。
 - 体位を交換すると下肢の疼痛が改善する。
 - 下腿に潰瘍や壊疽が認められる。
- 2 高尿酸血症をきたさないのはどれか。
- 糖尿病 I 型
 - Fanconi 症候群
 - 慢性骨髄性白血病
 - サイアザイド内服
 - Lesch-Nyhan 症候群
- 3 感染性心内膜炎について正しいのはどれか。
- 弁周囲膿瘍は人工弁に比して自己弁に多く認められる。
 - 感染性心内膜炎による心不全は進行性に増悪することは稀である。
 - A 群 β 溶血性レンサ球菌を起因菌とした感染性心内膜炎の病状進行は比較的緩徐である。
 - 左心系の感染性心内膜炎における塞栓症のリスクは、疣腫の大きさや位置と無関係である。
 - 自己弁における感染性心内膜炎では、大動脈弁の感染性心内膜炎が心不全の発症率が最も高い。
- 4 マイコプラズマ肺炎について、正しいのはどれか。
- 高齢者に多い。
 - 咳嗽とともに喀痰を伴うことが多い。
 - 末梢血中の白血球は増加することが多い。
 - 寒冷凝集素価が上昇することが多い。
 - セフェム系の抗菌薬が有効である。
- 5 糖尿病の合併症について誤っているのはどれか。
- 膀胱機能障害の原因となる。
 - 末梢神経障害は両側性におこることが多い。
 - アルブミン尿は心血管疾患発症のリスクとなる。
 - 繰り返す無自覚低血糖は網膜症の進行に関与する。
 - 血尿だけが続いたのちに急速に腎機能が低下することが多い。
- 6 紅斑熱群リケッチア症でないのはどれか。
- シベリアアマダニチフス
 - ロッキー山紅斑熱
 - ウエストナイル熱
 - 日本紅斑熱
 - ボタン熱
- 7 第一度無月経の原因部位としてもっとも多いのはどれか。
- 視床下部
 - 下垂体前葉
 - 下垂体後葉
 - 子宮
 - 卵巣
- 8 II度の肝性脳症と腹水を伴う肝硬変患者の治療として適切でないのはどれか。
- 高蛋白食
 - 利尿薬投与
 - ラクツロース投与
 - 難吸収性抗生物質
 - 分岐鎖アミノ酸製剤投与
- 9 心不全の症状としてみられない所見はどれか。
- 食欲亢進
 - 下腿浮腫
 - 起座呼吸
 - 尿量減少
 - チアノーゼ
- 10 著明な精神症状、遷延性意識障害、中枢性低換気、痙攣発作、多彩な不随意運動などを特徴とする若年女性に好発する自己免疫性脳炎に、最も合併しやすい腫瘍はどれか。
- 扁平上皮癌
 - 卵巣奇形種
 - 小細胞肺癌
 - 浸潤性胸腺腫
 - 悪性リンパ腫

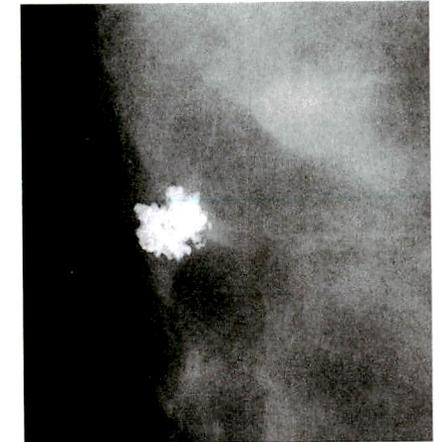
- 11 Hodgkin リンパ腫について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a リンパ球減少を認める。
 - b Langhans 巨細胞が出現する。
 - c リンパ節腫大は有痛性であることが多い。
 - d 本邦では全悪性リンパ腫の約 30 % を占める。
 - e 限局性のものに対しても多剤併用抗がん化学療法が施行される。

- 12 肺血栓塞栓症について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 胸痛は呼気時に増強する。
 - b FDP は高値を示す。
 - c AaDO₂ は正常である。
 - d 呼吸性アルカローシスをきたす。
 - e 肺動脈楔入圧は上昇する。

- 13 甲状腺機能低下症にみられないのはどれか。
- a 徐脈
 - b 脱毛
 - c 低体温
 - d 顔面浮腫
 - e 周期性四肢麻痺

- 14 全身性エリテマトーデスについて誤っているのはどれか。
- a リンパ球が減少する。
 - b 光線過敏症を認める。
 - c 血清補体価が低下する。
 - d 抗Sm抗体が陽性となる。
 - e 関節の破壊を起こしやすい。

- 15 乳癌検診で石灰化を指摘されたマンモグラフィーの拡大像を示す。最も考えられるのはどれか。
- a 小葉癌
 - b 乳腺のう胞
 - c 充実線管癌
 - d 乳腺繊維腺腫
 - e 非浸潤性乳管癌



マンモグラフィーの拡大像

- 16 正しいのはどれか。
- a 21番と14番染色体のロバートソン型転座保因者にDown症児は生まれない。
 - b 母体の高齢妊娠は軟骨無形成症の発生増加のリスク要因となる。
 - c 先天性副腎皮質過形成はX染色体連鎖劣性遺伝病である。
 - d 常染色体均衡型相互転座保因者は反復流産を惹起しない。
 - e Prader-Willi症候群は低緊張を呈する。

- 17 成熟嚢胞性奇形腫について、誤っているのはどれか。
- a 好発年齢は20 - 30歳である。
 - b 両側発生の頻度は20 - 30%である。
 - c 良性卵巣腫瘍の中で20 - 30%の頻度である。
 - d 血清SCCが高値をきたすことが20 - 30%ある。
 - e まれに脳炎を引き起こすことがある。

- 18 後縦靭帯骨化症について誤っているのはどれか。
- a 糖尿病を合併する人が多い。
 - b 痛風を合併する人が多い。
 - c 国の特定疾患である。
 - d 家族内の発生がある。
 - e 東南アジア人に多い。

- 19 パーソナリティー障害と特徴の組合せで誤りはどれか。
- a 依存性パーソナリティー障害——自分で決断できない
 - b 境界性パーソナリティー障害——魔術的思考がみられる
 - c 強迫性パーソナリティー障害——規則に過剰にこだわる
 - d 自己愛性パーソナリティー障害——他人から賞賛を得たがる
 - e 妄想性パーソナリティー障害——道理に合わない疑念を持つ

20 腸結核に特徴的な消化管病変はどれか。

- a 数石像
- b 縦走潰瘍
- c 輪状潰瘍
- d 拇指圧痕像
- e 中毒性巨大結腸

21 房室結節の伝導を亢進する薬物はどれか。

- a ジゴキシン
- b アデノシン
- c ジルチアゼム
- d プロプラノロール
- e イソプロテレノール

22 Horner徴候を呈する疾患はどれか。2つ選べ。

- a 橋出血
- b Bell麻痺
- c 延髄外側梗塞
- d 内頸動脈閉塞症
- e 内頸動脈-後交通動脈 動脈瘤

23 骨髓線維症の末梢血所見で特徴的なのはどれか。

- a 環状鉄芽球
- b 涙滴状赤血球
- c 過分葉好中球
- d 異型リンパ球
- e Howell-Jolly小体

24 圧迫性無気肺の原因として正しいのはどれか。

- a 気胸
- b 粘液栓
- c 肺線維症
- d 気道異物
- e 気管支内腫瘍

25 先端巨大症の血液中で上昇するのはどれか。2つ選べ。

- a リン
- b カリウム
- c ナトリウム
- d カルシウム
- e ソマトメジンC

26 巣状糸球体硬化症について正しいのはどれか。

- a 尿蛋白の選択性は低い。
- b 血清IgGが高値である。
- c 肉眼的血尿が認められる。
- d 低補体血症が認められる。
- e 副腎皮質ステロイド薬が著効する。

27 食物依存性運動誘発アナフィラキシーについて誤っているのはどれか。

- a 男女差はない。
- b 中年にも見られる。
- c 原因食物はイカが最も多い。
- d 原因食物を摂取するだけでは症状が出現しない。
- e 原因食物の摂取後3時間以内は激しい運動を控える。

28 胃全摘後にきたしやすいのはどれか。2つ選べ。

- a ペラグラ
- b 高脂血症
- c 門脈圧亢進症
- d 巨赤芽球性貧血
- e ダンピング症候群

- 29 新生児呼吸窮迫症候群に関して正しいのはどれか。
- a 早産児より正期産児で多い。
 - b 肺水吸収遅延が原因である。
 - c 胸部エックス線写真上に網状顆粒状陰影を呈する。
 - d マイクロバブルテストは児の尿検体を使用する。
 - e 肺サーファクタントは主にI型肺胞上皮細胞で生合成される。

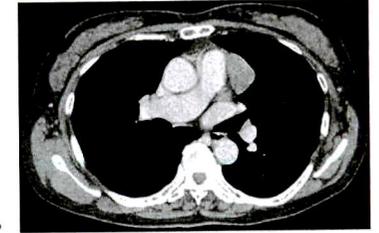
- 30 常位胎盤早期剥離の誘因と考えられないのはどれか。
- a 外傷
 - b 多胎
 - c 高血圧
 - d 外回転術
 - e 羊水過少

- 31 誤っているのはどれか。
- a 塩素ガスは強い咽頭刺激作用がある。
 - b 一酸化炭素は中毒でチアノーゼを呈する。
 - c 硫化水素は職場の酸欠危険場所で測定が義務付けられている。
 - d 二酸化窒素は数時間の潜伏期の後に肺水腫を起こす。
 - e シアン化水素はチトクロームオキシダーゼ呼吸酵素を阻害する。

- 32 耳介奇形について正しいのはどれか。
- a 小耳症に聴覚障害は合併しない。
 - b 立ち耳とは耳輪の彎曲が不十分なために生じる。
 - c 組織不足が無くとも折れ耳の矯正治療は奏功しない。
 - d 埋没耳では耳介軟骨下部が側頭部皮下に埋没している。
 - e スター耳とは対輪に第3脚が見られる耳介奇形である。

- 33 化膿性膝関節炎の関節液所見として誤っているのはどれか。
- a 血性
 - b 糖の低下
 - c 細菌培養陽性
 - d 外観が不透明
 - e 白血球数の上昇

- 34 50歳の女性。健康診断で、異常を指摘された。血液検査で抗アセチルコリンレセプター抗体が陽性であった。胸部CTを示す。



胸部CT

- 腫瘍の特徴として正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 合併疾患の一つに赤芽球病がある。
 - b 治療として、化学療法が第一選択である。
 - c 術後に重症筋無力症を発症することはない。
 - d 臨床的に低悪性度の腫瘍であることが多い。
 - e 低ガンマグロブリン血症を合併することはない。

- 35 ¹³¹Iの環境汚染で問題となる疾患はどれか。
- a 喉頭癌
 - b 甲状腺癌
 - c 肺癌
 - d 胃癌
 - e 大腸癌

- 36 正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 社会恐怖は不安障害に含まれる。
 - b 解離性障害では思考奪取が起こる。
 - c 心気障害では世界没落体験を呈する。
 - d 転換性障害ではらせん状視野狭窄がみられる。
 - e パニック発作と広場恐怖の併発はまれである。

- 37 14歳の女子。低身長と初経の遅れを主訴に来院した。身長138 cm、体重44 kg。第二時性徴はみられず、翼状頸と外反肘とを認める。

- この疾患で正しいのはどれか。
- a 手背、足背のリンパ性浮腫
 - b 染色体数は47本である
 - c 低ゴナドトロピン血症
 - d 高エストロゲン血症
 - e 全前脳胞症

- 38 市中肺炎の原因として最も考えにくいのはどれか。
- a *Chlamydomphila psittaci*
 - b *Legionella pneumophila*
 - c *Mycoplasma pneumoniae*
 - d *Pseudomonas aeruginosa*
 - e *Streptococcus pneumoniae*

- 39 感染者の発生が主に北海道で、虫卵の経口摂取で感染し、肝臓や脳に嚢腫を形成するのはどれか。
- 無鉤条虫
 - 多包条虫
 - 有鉤条虫
 - 広節裂頭条虫
 - マンソン裂頭条虫

- 40 7歳の男児。3日前からの発熱と、頸部に腫脹があり受診した。触診すると、耳介下と下顎部の間に大きさ2×3 cm大のリンパ節が両側にあり、圧痛がある。体温38.5度、咽頭発赤や扁桃腺腫大なし。胸部、腹部には異常なし。左の上腕部に一週間以上前から3 cmぐらいの傷があり、赤くはれている。飼い猫を抱いて遊んだ後から気づいたという。

予想される疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- 犬からは感染しない。
 - 抗菌薬療法が奏功する。
 - 三種混合ワクチンで予防できる。
 - 肝臓に膿瘍性病変が見られることがある。
 - リンパ節組織病理所見では壊死性変化を示す。
- 41 60歳の男性。半年前からある手荒れが治らないことを主訴に来院した。皮疹は右手のみで左手にはない。右手の写真を図1に、苛性カリ（KOH）直接検鏡法の写真を図2に示す。

この患者の診察について正しいのはどれか。

- 金属アレルギーの有無について問診する。
- 腎障害の有無を問診する。
- 足病変の有無を確認する。
- 扁桃肥大の有無を確認する。
- 表在リンパ節の腫大の有無を確認する。



図1

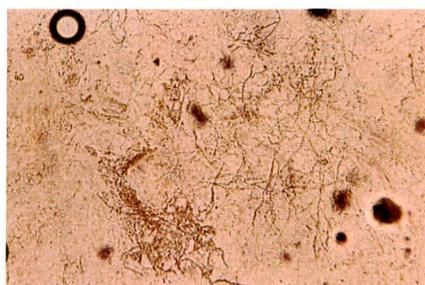
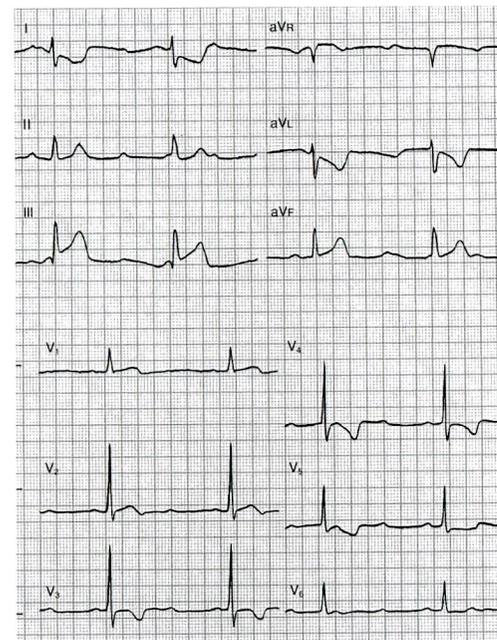


図2

- 42 62歳の男性。5年前より高血圧と脂質代謝異常症を指摘されていたが放置していた。3日前より昼間の労作時に冷汗を伴う胸部圧迫感が出現するようになり、数分の休息により軽快していた。本日前午9時半頃、自宅の庭掃除中に同様の症状が出現し、安静にしても症状が持続するため当院救急外来を受診した。来院時の心電図と、引き続き行われた緊急処置で得られた検体を以下に示す。

正しいのはどれか。

- 再発予防にアスピリンが有用である。
- 検体は左心室内腔に形成されたものである。
- 検体は全身麻酔下に摘出されたものである。
- 今後恒久的ペースメーカーの植え込み術が必要である。
- 左冠動脈前下行枝に形成された動脈硬化性粥腫の破綻が原因である。



心電図



検体

43 30歳の女性。2週間前に感冒に罹患し、以後、早朝に咳嗽と喘鳴を認めるために受診した。胸部聴診所見には異常は認めない。胸部エックス線検査では異常所見なし。呼吸機能検査では下記の通りであった。

肺活量：3,480 ml、肺活量予測値：3,400 ml、努力肺活量：3,350 ml、1秒量：2,100 ml。

1秒量予測値：2,630 ml、% DLco：85 %。気管支拡張薬吸入後の1秒量：2,500 ml。

本症例について認められるのはどれか。

- a 拡散障害
- b 肺胞低換気
- c 拘束性換気障害
- d 気道可逆性あり
- e 気道過敏性の亢進

44 32歳の男性。父は35歳で心筋梗塞で死亡している。

ジョギング中に胸が締め付けられるような痛みを感じたため来院した。

喫煙歴なし。飲酒はビール350 ml/日。

身長168 cm、体重60 kg、血圧118/70 mmHg、眼瞼に黄色腫あり。

アキレス腱の肥厚を認める。

空腹時血糖98 mg/dl、尿酸6.0 mg/dl、BUN17 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl、Na140 mEq/l、K4.0 mEq/l、Cl100 mEq/l、総コレステロール322 mg/dl、HDLコレステロール32 mg/dl、LDLコレステロール265 mg/dl、中性脂肪124 mg/dl。

本症例の治療で適切なのはどれか。

- a 禁酒
- b 蛋白制限食
- c 有酸素運動
- d フィブラート系薬投与
- e HMG-CoA還元酵素阻害薬投与

45 30歳の女性。2週間より排尿時痛があったが放置していた。3日前より38~39℃の発熱を認め市販の解熱剤で様子を見ていたが症状に改善がないため受診した。身長158 cm、体重45 kg。体温38.5℃。脈拍82/分、整。血圧102/60 mmHg。左側腹部に圧痛、左肋骨脊椎角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白1+、潜血2+、沈渣：白血球>100/1視野、赤血球20~29/1視野。血液所見：赤血球426万、Hb13.1 g/dl、白血球9,780、血小板15.5万。血液生化学所見：尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl。免疫学所見：CRP13.33 mg/dl。

診断はどれか。

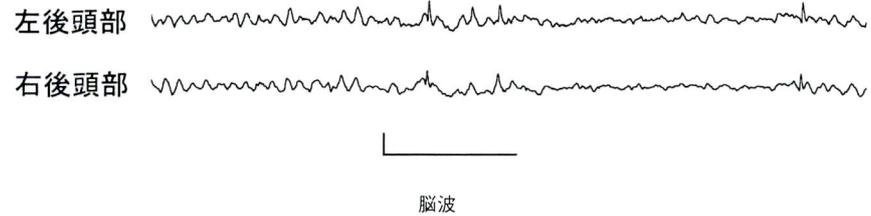
- a 急性膀胱炎
- b 腸腰筋膿瘍
- c 急性腎盂腎炎
- d 腹部大動脈解離
- e 卵巣嚢腫茎捻転

46 14歳の女子。低身長と初潮の遅れとを主訴に母親に伴われて来院した。身長140 cm(-3.0SD)、体重45.0 kg。Tanner分類で乳房1度、陰毛もみとめない。翼状頸、外反肘を認める。新生児期に動脈管開存と足背浮腫を指摘されたことがある。

この疾患で間違っているのはどれか。

- a 卵巣機能不全を伴う。
- b 性染色体異常症である。
- c 血中FSHは低値を示す。
- d 知能は正常であることが多い。
- e 大動脈縮窄症の合併頻度が高い。

47 26歳の男性。22歳時より、視界のどこかにピカッと光るものが一瞬見えることが時々あったが、気にしていなかった。25歳時よりピカッと光るものが一瞬見える頻度が増えてほぼ毎日見えるようになり、火の玉のようなものが視界を左から右へ横切ることも数日に一度あるため、眼科診療所を受診したが、視力・視野・眼底に異常は指摘されず、精神科病院を紹介された。精神科病院を初診した際の脳波を示す（図中のL字形のスケールは、縦が50マイクロボルト、横が1秒間を示す）。



脳波に現れているのはどれか。

- a 棘波
- b 急速眼球運動
- c 脳電氣的無活動
- d 周期性同期性放電
- e ヒプサリズム (ヒプスアリズミア)

48 50歳の女性。顔面、背部、手指の皮疹を主訴に来院した。1か月前より倦怠感、上腕や大腿の筋肉痛を自覚していた。同時期より顔面に皮疹が出現し、その後、背部と両手指に皮疹が出現したため受診した。顔面、背部、右手指の写真を示す。

この患者で注意すべき合併症はどれか。

- a 中枢神経障害
- b 呼吸機能障害
- c 心機能障害
- d 腎機能障害
- e 末梢神経障害

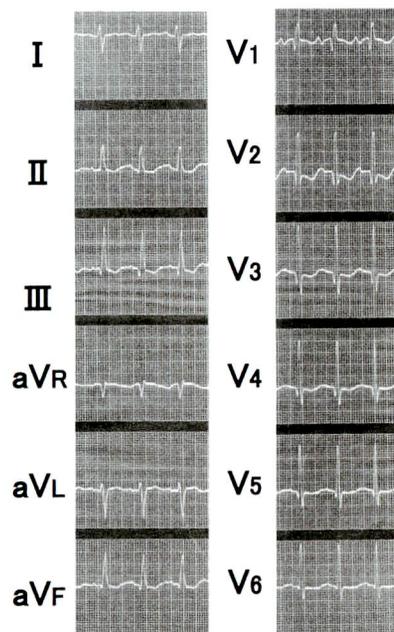


臨床写真

49 33歳の女性。2年前から労作時に息切れを自覚するようになった。下腿浮腫と全身倦怠感が出
現し、呼吸困難が増強した。来院時の心電図と心エコー図を示す。

来院時の所見はどれか。

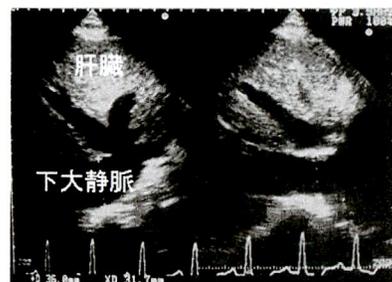
- a ドプラ心エコー図での推定による三尖弁逆流圧較差 12 mmHg
- b 肺動脈圧 24/8 (平均 16) mmHg
- c 血中BNP濃度 8.2 pg/ml
- d 中心静脈圧 5 mmHg
- e 頸静脈怒張



心電図



拡張末期 収縮末期



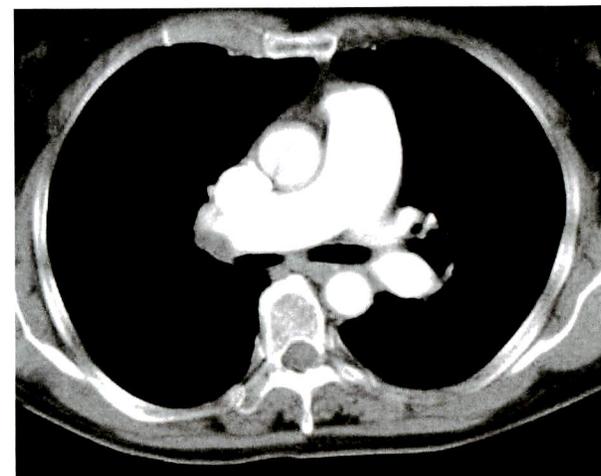
呼気 吸気

心エコー図

50 68歳の女性。1週間前から左大腿部の疼痛、腫脹を自覚するようになった。今朝、排便後に突然
呼吸困難が出現し、安静にしていたが症状が改善しないため、当院の救急外来を受診した。受診時、
意識は清明であったが呼吸困難のため会話は途切れ途切れであった。体温 36.4℃、脈拍数 98 回/分、
呼吸数 28 回/分、血圧 102/78 mmHg、動脈血液ガス分析 (室内気吸入下) pH 7.483、PaCO₂ 25.4
Torr、PaO₂ 46.0 Torr、HCO₃⁻ 18.6 mmol/l、BE -3.0 mmol/l、胸部造影CTを示す。

この疾患で正しいのはどれか。

- a 本邦では男性に多い。
- b 診断には経気管支肺生検が有用である。
- c 肺換気シンチグラフィーで欠損像を示す。
- d 手術後の早期離床は本疾患の危険因子となる。
- e 心臓超音波検査は重症度の判定にも有用である。



胸部造影CT

51 35歳の女性。体重増加を主訴に来院した。

現病歴：大学入学時の健康診断では身長158 cm、体重52 kgであった。入学後は勉学と部活動に勤しむ日々を過ごしていた。卒業時の体重は入学時と変わらなかったが、外資系企業に就職後、生活が不規則になり徐々に体重が増加した。28歳で結婚した時の体重は58 kgであった。30歳時に妊娠し、妊娠中の体重増加は15 kgであった。その後も家事や育児に追われる毎日であり、体重は78 kgまで増加した。初潮は12歳で、月経周期は規則的である。

既往歴、家族歴：特記すべきことはない。

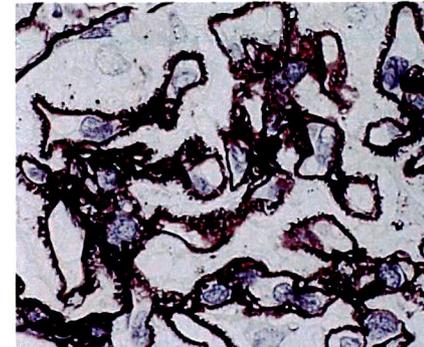
受診時身体診察：意識清明。身長158 cm、体重78 kg。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧112/68 mmHg。胸腹部に異常所見を認めない。多毛なし。

検査所見：尿所見：糖(-)、蛋白(-)、潜血(-)。血液所見：空腹時血糖102 mg/dl、HbA1c 5.6%、総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素16.2 mg/dl、クレアチニン0.72 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.2 mEq/l、TSH 1.86 μU/ml(基準0.3~4.0)、FT4 1.2 ng/dl(基準1.0~1.8)、ACTH 42.5 pg/ml(基準7.2~63.3)、コルチゾール13.8 μg/dl(基準4.0~18.3)。少量デキサメサゾン抑制試験ではコルチゾールの抑制あり。

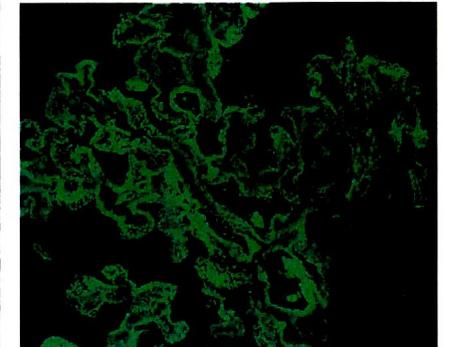
診断はどれか。

- a 単純性肥満
- b Cushing症候群
- c 甲状腺機能低下症
- d 多嚢胞性卵巣症候群
- e Prader-Willi症候群

52 45歳の女性。40歳時に関節リウマチと診断され薬剤治療を行っている。1年前より蛋白尿を認めるようになり、最近になり下腿に浮腫を認めるようになった。血圧105/75 mmHg。尿所見：蛋白尿3.2 g/日、潜血(-)。血液生化学所見：アルブミン2.8 g/dl、尿素窒素9.7 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl。本例の光顕所見(腎生検PAM染色所見と蛍光抗体法IgG染色所見)を示す。



腎生検PAM染色所見



蛍光抗体法IgG染色所見

原因となる薬剤はどれか。

- a ブシラミン
- b メトトレキサート
- c 副腎皮質ステロイド薬
- d サラズスルファピリジン
- e 非ステロイド系消炎鎮痛薬

53 52歳の女性。上腹部痛を主訴に近医を受診した。腹部超音波検査で胆道系の異常を指摘され来院した。ERCPを示す。腹部は平坦で腫瘍は触知しない。血液所見：赤血球 380万、Hb 12.5 g/dl、白血球 5,000、血小板 25.5万。血液生化学所見：総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 25 IU/l、ALT 18 IU/l、アミラーゼ 70 IU/l (基準 37~160)、CA19-9 4.0 U/ml (基準 37以下)。ERCP時に採取した胆汁中アミラーゼ 56,044 IU/lであった。

適切な手術法はどれか。

- a 臍空腸吻合術
- b 臍頭十二指腸切除術
- c 経皮経肝胆道ドレナージ術
- d 胆嚢・胆管切除、胆道再建術
- e 総胆管切開、Tチューブドレナージ術



ERCP

54 10歳の男児。6日前からの38~39℃の発熱と咽頭痛を認めた。3日前に近医を受診し抗菌薬を投与されたところ体幹に皮疹の出現を認め来院した。体温38.5℃、咽頭は発赤し、扁桃は腫大し白苔の付着を認める。両側頸部に2.3 cm大のリンパ節を数個触知する。右肋骨弓下に肝を2 cm、左肋骨弓下に脾を2 cm触知する。血液所見：赤血球 450万、Hb 11.6 g/dl、Ht 43%、白血球 12,000 (桿状核好中球 3%、分葉核好中球 17%、単球 5%、リンパ球 55%、異型リンパ球 21%)、血小板 21万。血液生化学所見：総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 130 IU/l、ALT 220 IU/l、LD 480 IU/l (基準 176~353)。CRP 1.8 mg/dl。

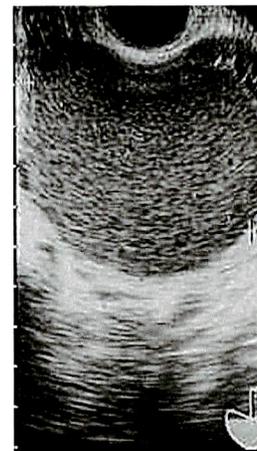
この患者で最も考えられる疾患は次のうちどれか。

- a アデノウイルス感染症
- b 川崎病
- c 伝染性単核症
- d A群レンサ球菌感染症
- e 急性リンパ性白血病

55 32歳の女性。未経妊。月経痛と3年間の不妊とを主訴に来院した。基礎体温は2相性で、卵管の通過性と性交後試験とに異常を認めない。夫の精液所見は正常。内診で右卵巣が鷲卵大に腫大し、可動性不良である。直腸診でDouglas窩に硬結と圧痛とを認める。超音波検査で右付属器部に径8 cm、内容がびまん性点状高輝度の嚢胞を認める。血清CA 125 128 U/ml (基準 35以下)、CA 19-9 10 U/ml (基準 37以下)。経陰的超音波断層検査所見、骨盤部単純MRIのT2強調像を示す。

治療として最も適切なのはどれか。

- a クロミフェン療法
- b ゴナドトロピン療法
- c プロモクリプチン療法
- d 体外受精・胚移植
- e 腹腔鏡下卵巣嚢胞摘出術



経陰的超音波断層検査所見



骨盤部単純MRIのT2強調像

56 7歳の男児。3歳の頃から落ち着きのなさが目立つようになった。4、5歳の頃、すぐ迷子になるため親は目が離せなかった。小学校に入学したところ、友達はできたが、授業中に着席できず、担任の話集中して聴けず、忘れ物が目立った。自宅でも同様で、食事や宿題に取り組む時にもじっとしてられないため、病院を受診した。知能検査では正常範囲の知的能力であった。

この障害について正しいのはどれか。

- a 男児に多い。
- b てんかんを合併する。
- c 興味のかたよりがみられる。
- d 中枢神経刺激薬で症状が悪化する。
- e 社会的相互作用の質的障害がみられる。

57 60歳の女性。生来健康。全身の皮疹を主訴に来院した。3か月前から、特に誘因なく全身に痒みを伴う紅斑と水疱が多発するようになった。体幹と四肢に紅斑と水疱を認めるが、粘膜疹は認めない。皮膚生検の病理組織では表皮下水疱を認めた。さらに、凍結生検皮膚を用いた蛍光抗体直接法では表皮基底膜部にIgGとC3の線状沈着、1M食塩水処理正常皮膚を用いた蛍光抗体間接法では表皮側にIgGの沈着を認めた。体幹および左上腕の写真を示す。

この疾患に対する適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a アシクロビルの点滴静注
- b アシクロビル軟膏の塗布
- c 抗菌薬の点滴静注
- d 副腎皮質ステロイド薬の内服
- e シクロスポリンの内服



体幹写真



左上腕の写真

58 23歳の女性。メロンを食べて20分後、口腔の違和感、口唇の浮腫と全身の掻痒感が出現したため、救急外来を受診した。

同様の症状を来しやすいのはどれか。2つ選べ。

- a スギ
- b リンゴ
- c カモガヤ
- d シラカバ
- e セイタカアワダチソウ

59 20歳の男性。1週間前から両眼が充血し、眼脂が多いことを主訴に来院した。左眼の下眼瞼の写真を示す。

考えられるのはどれか。

- a アレルギー性結膜炎
- b ウイルス性結膜炎
- c クラミジア結膜炎
- d 細菌性結膜炎
- e 真菌性結膜炎

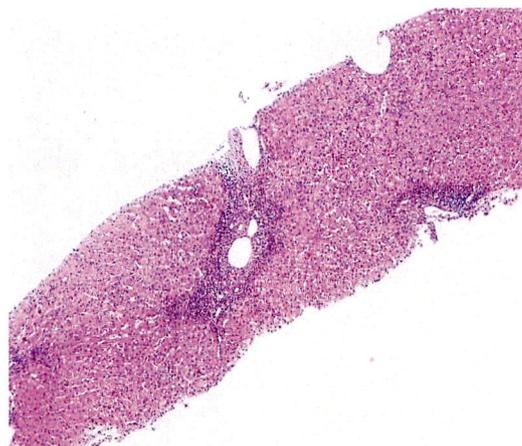


左眼の下眼瞼の写真

60 45歳の女性。人間ドックで肝機能障害を指摘され来院した。自覚症状はない。身長 153 cm、体重 51 kg。血液生化学所見：総蛋白 8.2 g/dl、トリグリセリド 128 mg/dl、AST 90 IU/l、ALT 105 IU/l、ALP 324 IU/l（基準 115~359）、 γ -GTP 40 IU/l（基準 8~50）、IgA 340 mg/dl（基準 110~410）、IgG 1,650 mg/dl（基準 960~1,960）、IgM 325 mg/dl（基準 65~350）。免疫学所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陽性、抗核抗体陰性。肝生検組織標本を示す。

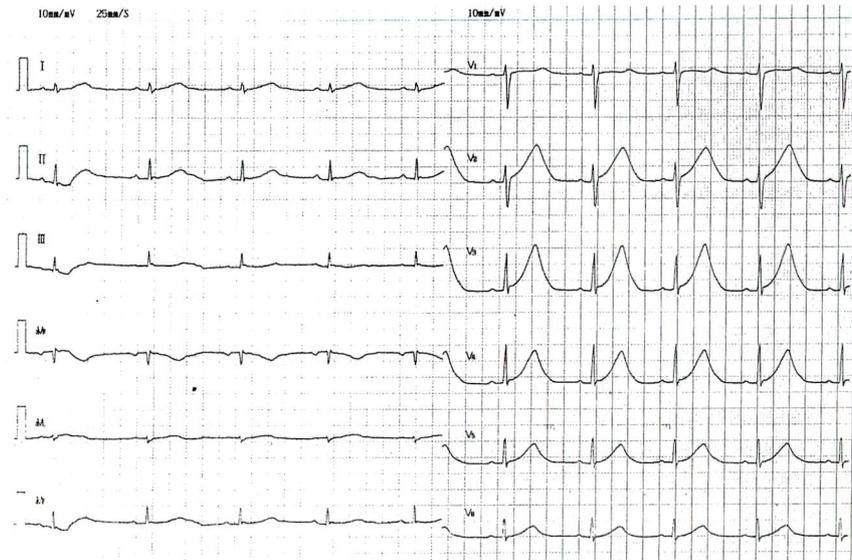
肝生検組織標本に認められる所見はどれか。

- a 偽小葉形成
- b 中心静脈の肥厚
- c 小葉間胆管の破壊
- d 肝細胞への脂肪沈着
- e Glisson鞘へのリンパ球浸潤



肝生検組織標本

61 17歳の女子。繰り返す失神発作を主訴に来院した。失神は驚愕や興奮によって誘発されることが多く、発作時は崩れるように倒れる。数秒から数十秒で意識を回復し、直ちに会話や歩行が可能である。母方の親族に2名突然死の家族歴がある。来院時、意識清明、脈拍 60/分、整。血圧 102/62 mmHg。心音呼吸音正常。下腿浮腫なし。立位負荷（10分間立位）では血圧は 96~116/mmHgに保たれ、失神は誘発されなかった。来院時に記録された12誘導心電図を示す。



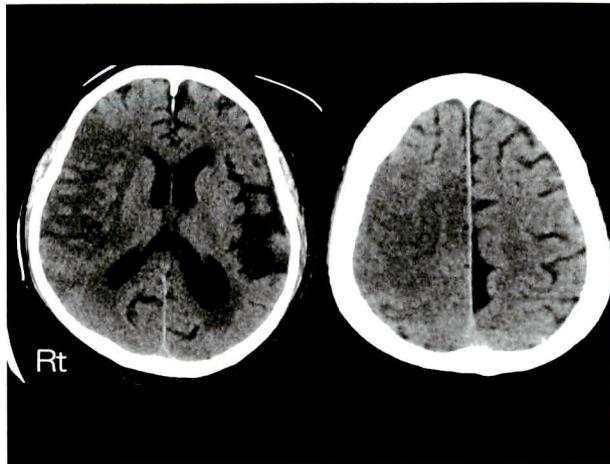
12誘導心電図

本症例の失神予防に有用な治療はどれか。

- a アスピリン
- b プロプラノロール
- c プロカインアミド
- d ジフェニルヒダントイン
- e 恒久的ペースメーカー植え込み

62 76歳の男性。右利き。心房細動を指摘されているが治療はしていなかった。昨夜、就寝時は異常はなかったが、昼になっても起床してこないため、家族が見に行ったら、左片麻痺と意識障害を認めたため救急搬送された。

緊急頭部CTを示す。



緊急頭部CT

来し得る神経症候を2つ選べ。

- a 左右失認
- b 病態失認
- c 運動失語
- d 観念運動失行
- e 半側視空間失認

63 70歳の男性。6か月前から徐々に進行する息切れのため来院した。脈拍 120/分、整。血圧 130/72 mmHg。四肢に数個の小さな紫斑を認める。頸部リンパ節腫大はない。眼瞼結膜は貧血様であるが、眼球結膜に黄染はない。胸部所見に異常はなく、腹部は平坦、軟で肝・脾を触知しない。

血液所見：赤血球 201 万、Hb 6.8 g/dl、Ht 21.2 %、白血球 1,800、血小板 4.0 万。血液生化学所見：総蛋白 6.5 g/dl、総ビリルビン 1.0 mg/dl、AST 45 IU/l、ALT 30 IU/l、LDH 470 IU/l（基準 176～353）。骨髓血塗抹所見（図1：メイ・ギムザ染色、図2：鉄染色）を示す。

本疾患について正しいのはどれか。

- a 髄外造血をおこす。
- b 血清ビタミンB12は低値を示す。
- c 80%以上が骨髓纖維症に発展する。
- d 細胞の異型性はリンパ球にも及ぶ。
- e 骨髓細胞の染色体異常は予後を反映する。

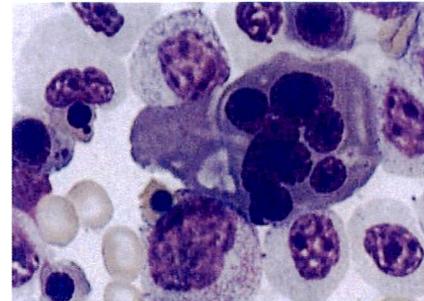


図1 骨髓血塗抹所見：メイ・ギムザ染色

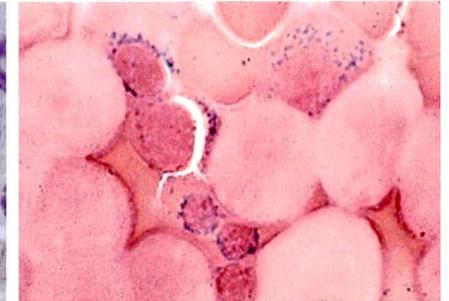
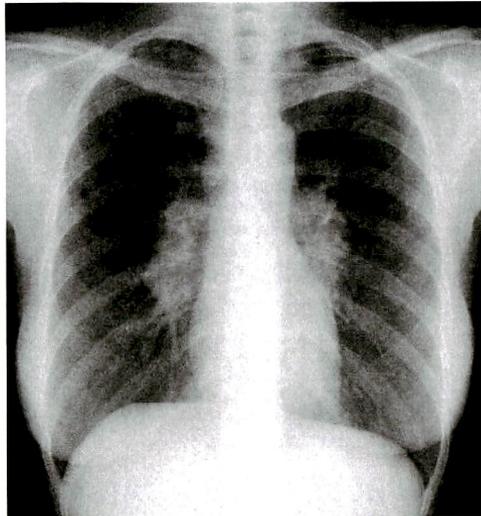


図2 骨髓血塗抹所見：鉄染色

64 38歳の女性。眼科にてぶどう膜炎と診断され、胸部エックス線検査を受けたところ異常を指摘された。咳嗽、喀痰は認めない。喫煙歴はない。胸部エックス線写真を示す。

診断の確定に有用な検査を2つ選べ。

- a 胸部造影CT
- b 心臓超音波検査
- c 気管支肺胞洗浄
- d 超音波気管支鏡下リンパ節生検
- e ポジトロンエミッション断層撮影 (PET)



胸部エックス線写真

65 28歳の女性。無月経と乳汁分泌を主訴に来院した。初経12歳。これまで妊娠分娩歴はない。身長158 cm、体重47 kg。体温36.4℃、脈拍76/分、整。血圧98/54 mmHg。貧血なし。黄疸なし。甲状腺腫大は認めない。内分泌検査所見：TSH 0.97 μ IU/ml (基準0.50~5.00)、遊離トリヨードサイロニン 3.25 pg/ml (基準2.30~4.30)、遊離サイロキシン 1.08 ng/ml (基準0.90~1.70)、プロラクチン 175 mg/ml (基準4.91~29.32)。尿中hCG \leq 0.7 mIU/ml (基準0.7以下)。

本症例にまず行うべきことはどれか。

- a 内服薬の確認
- b 頭部MRI撮影
- c ゲスターゲン試験
- d 甲状腺超音波検査
- e 性交渉の時期の確認

66 30歳の女性。生来健康で健診でも異常を言われなかった。6年前から高血圧を指摘されていたが、健診の都度に悪化が認められるため受診した。

現症：身長160 cm、体重48 kg。意識清明。脈拍72/分、整。血圧170/110 mmHg。甲状腺腫大なし。

胸部：心音純、肺野清、腹部：臍部よりやや左側に血管雑音聴取。その他異常なし。尿所見：蛋白(-)、血尿(-)、糖(-)、沈渣異常なし。

血液生化学：尿素窒素 14 mg/dl、クレアチニン 0.7 mg/dl、Na 141 mEq/l、K 3.2 mEq/l、Cl 105 mEq/l、腹部超音波検査：腎サイズ測定にて左腎9 cm、右腎12 cm。

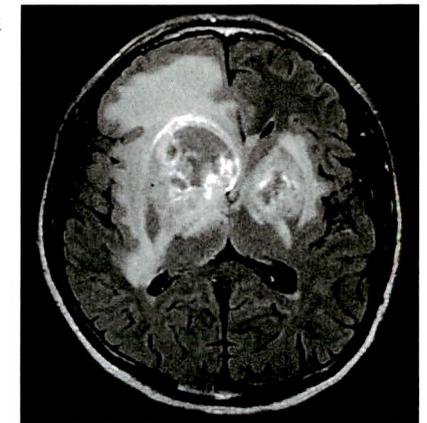
予測されるのはどれか。

- a 甲状腺刺激ホルモン 高値
- b 血漿レニン活性 高値
- c アルドステロン 低値
- d プロラクチン 高値
- e コルチゾール 低値

67 30歳の男性。4か月前から仕事のミスをよく指摘され、気分が落ちこむことが多かった。2か月前より、全身倦怠感と水様性下痢を自覚した。近医の精神科を受診し、脳内占拠性病変を指摘され当院に紹介された。受診時の頭部MRI所見 (FLAIR画像) を以下に示す。血液検査にて、HIV抗体スクリーニング検査で陽性。ウエスタン・ブロット法による確認検査でも陽性であった。また、 β -D-グルカン陰性、クリプトコッカス抗原陰性であった。開頭腫瘍生検術の結果、悪性リンパ腫(びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)と診断された。

正しいのはどれか。

- a 後天性免疫不全症候群 (AIDS) ではない。
- b 4類感染症としてただちに保健所に届出を行う。
- c 悪性リンパ腫はEBウイルスと高い関連性がある。
- d HIV感染症のために放射線治療を行うことができない。
- e 悪性リンパ腫の治療寛解後に抗レトロウイルス療法を行う。



頭部MRI所見 (FLAIR画像)

68 69歳の女性。検診の上部内視鏡検査で異常を指摘され来院した。

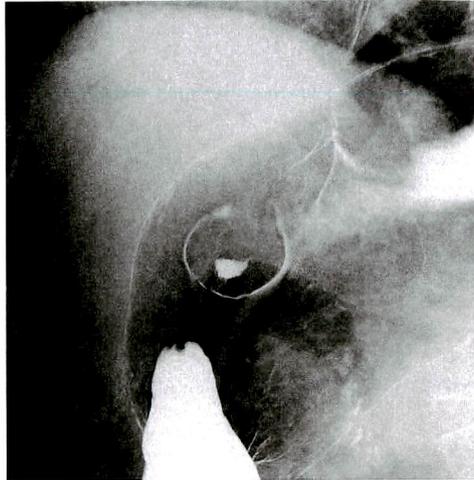
血液所見：赤血球 410 万、Hb 13.1 g/dl、白血球 4,900、血小板 24.5 万。

免疫学所見：CRP < 0.1 mg/dl、CEA 3.5 ng/ml（基準 5 以下）。

上部消化管造影写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 胃癌
- b 胃憩室
- c 胃ポリープ
- d 胃巨大皺襞症
- e 胃粘膜下腫瘍



上部消化管造影写真

69 1歳6か月の男児。1週前から38~39℃の発熱が続いている。4日前から全身に紅斑が出現した。

近医で感染症を疑われセフェム系抗菌薬を処方されたが症状の改善は見られなかった。昨日より両手掌の紅潮と浮腫を認めるようになった。来院時には眼球結膜の充血を認めたが眼脂はなく、口唇の紅潮・莓舌を認めた。診察にて頸部に径1 cm程度のリンパ節を数個触知した。胸部聴診所見は異常を認めなかった。

この疾患の合併症はどれか。

- a 亜急性硬化性全脳炎
- b 血小板減少性紫斑病
- c ギランバレー症候群
- d 急性糸球体腎炎
- e 冠動脈瘤

70 32歳の0経妊0経産婦。妊娠36週5日、骨盤位。31週頃より腹部緊満感を認め、塩酸リトドリンの内服をおこないながら、自宅で安静にしていた。少量の出血があったため、受診した。胎児心拍数陣痛図で5分間隔の規則的な陣痛を認めた。心拍数基線は150 bpm、基線細変動は10~15 bpmで、一過性徐脈は出現していない。内診所見で、先進部：足、station：±0、子宮口：5 cm開大、胎胞を触知、羊水の流出はなかった。血液所見：白血球 10,800、ヘモグロビン 10.9 g/dl、血小板 21 万、プロトロンビン時間 11.5 秒（正常値：11.0-14.0 秒）、D-ダイマー 8.3 μg/dl（非妊婦正常値 < 1.0 μg/ml）。直ちに帝王切開術を行った。術中経過は問題なかったが、術後1日目、左下肢の腓腹部疼痛と下腿浮腫を訴えた。胸痛はなく、脈拍 64 /分、血圧 110/68 mmHgである。

まず、行う検査は何か。

- a 血液検査
- b 造影CT撮影
- c 血液ガス分析
- d 心臓循環超音波
- e 下肢静脈超音波検査

71 35歳の男性。30℃を越す晴れた日中に道路建設作業に従事していた。発汗が著しかったために大量の水を摂取したところ、上肢及び下肢に痛みを伴う痙攣を呈した。

この患者に見られる症候として可能性が高いものはどれか。

- a 頻脈
- b 体温の上昇
- c 皮膚温の上昇
- d 呼吸数の増加
- e 意識レベルの低下

72 25歳の男性。L5/S1の外側型腰椎椎間板ヘルニアの診断で治療を受けていたが筋力低下が出現してきた。

障害されると考えられる動作はどれか。

- a 股関節屈曲
- b 股関節内転
- c 膝関節伸展
- d 足関節背屈
- e 足関節底屈

73 32歳の男性。自動車運転中に対向車と正面衝突し搬入された。意識は清明。呼吸数20/分。脈拍126/分。血圧116/68 mmHg。前胸部に打撲痕あり自発痛を訴えていた。来院時の12誘導心電図では異常を認めなかったが、血液検査でトロポニン値の高値を認めた。

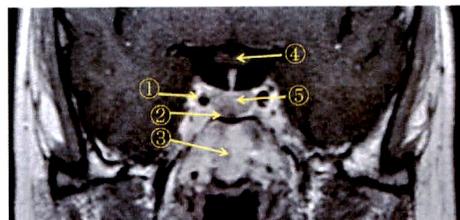
次に行う処置として最も適切なものはどれか。

- a 大量輸液
- b 経皮的冠動脈形成術
- c 一時的ペースメーカー留置
- d 中心静脈カテーテル挿入
- e 持続的心電図モニタリング

74 33歳の男性。数年前からいびきがひどくなり、耳鼻科を受診。顔貌変化、手足の肥大も認めたため、頭部MRIを行った。造影MRIの画像を示す。

腫瘍はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



造影MRI

75 40歳の女性。喫煙歴はなし。健康診断で、異常を指摘された。胸部CT検査で、「肺癌疑い」の診断となり、精査目的に来院。

胸部CT所見で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 椎体浸潤が疑われる。
- b 転移性肺腫瘍が疑われる。
- c 病変は、右上葉に存在する。
- d 病変は、右S4 (区域) に存在する。
- e スリガラス様の結節影は、腺癌に多い所見である。

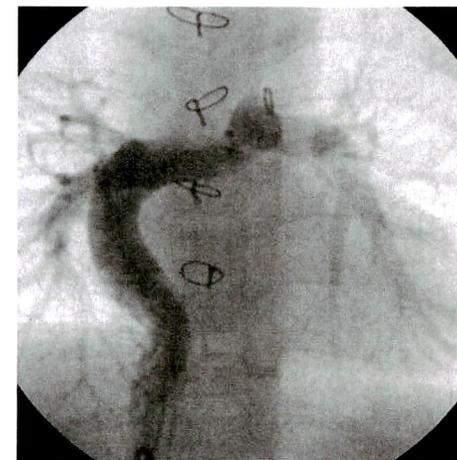


胸部CT

76 1歳の男児。単心室と診断され、1か月、3か月、1歳6か月時に計3回の心臓手術を受けた。1歳時のカテーテル造影を示す。

正しいのはどれか。

- a 肺血管拡張薬は循環動態を悪化させるため使用しない。
- b 3か月時に行われたのは肺動脈絞扼術である。
- c 上大静脈圧と右房圧は等しい。
- d 下大静脈圧と右房圧は等しい。
- e 下大静脈圧と肺動脈圧は等しい。



カテーテル造影

77 42歳の女性。生来健康。高校卒業後3年間事務職に就き、結婚後専業主婦となった。

1か月程前、耳の前に3mm径程のしこりのようなものがあることに気がついた。その後大きくはなっていないが、違和感があり、また「癌ではないか」と気になり、近医を受診し調べてもらった。「異常なものではない」と言われ、ひとまずは安心したが、帰宅してから再び心配になった。後日紹介してもらい総合病院を受診し、検査したが異常は指摘されなかった。それでも不安なため、「もっと精密な検査をしてください。」と言ったという。さらに2箇所の医療機関を受診したが同様の結果であった。この経過で問題がないかどうかを聞きたいと来院した。

考えられる疾患はどれか。

- a 心気障害
- b 転換性障害
- c 身体化障害
- d 全般性不安障害
- e 身体表現性自律神経機能不全

78 55歳の女性。両下腿の疼痛を伴う皮疹を主訴に来院した。1週間前から皮下硬結を伴う紅斑が両下腿に多発し、皮疹に一致して圧痛を認めていた。潰瘍は認めなかった。左下腿の写真を下に示す。皮膚生検の病理組織像では、皮下脂肪組織の葉間結合織にリンパ球と好中球を混じた炎症性細胞浸潤と小血管壁の炎症性細胞浸潤を認めた。

検査として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 便潜血検査
- b プリックテスト
- c 徒手筋力テスト
- d 最小紅斑量試験
- e ツベルクリン反応



左下腿の写真

79 50歳の男性。2か月前に右舌縁にひりひりした感じが出現し、次第に増強したため来院した。舌の右辺縁部に周囲の硬結を伴う隆起性病変を認め、同部の擦過細胞診はClass Vであった。舌の写真を示す。

頸部の触診で最も注意すべき部位はどれか。

- a 耳下部
- b 顎下部
- c 前頸部
- d 後頸部
- e 鎖骨上窩



舌の写真

80 46歳の女性。午後になると眼痛と頭重感が続くことを主訴に来院した。仕事で書類を多く読む。眼位と眼球運動とに異常はない。視力は右1.2（矯正不能）、左1.0（1.2×+0.50 D）。眼圧は右16 mmHg、左16 mmHg。両眼底に異常を認めない。

次に行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 仮性同色表検査
- b 近点距離測定
- c 涙液分泌検査
- d 角膜知覚検査
- e 頭部単純CT